

試験結果報告書

殿

工事名 :

試験の種類 : 碎石 30-20

試験年月日 : 令和8年2月25日

北九州市八幡西区大字畑576番地の3

株式会社 西村碎石所 大谷工場



写

この写しは原本と相違ないことを
証明致します

碎石 30-20

年 月 日

北九州市小倉南区大字呼野1035-5

株式会社 西村碎石所



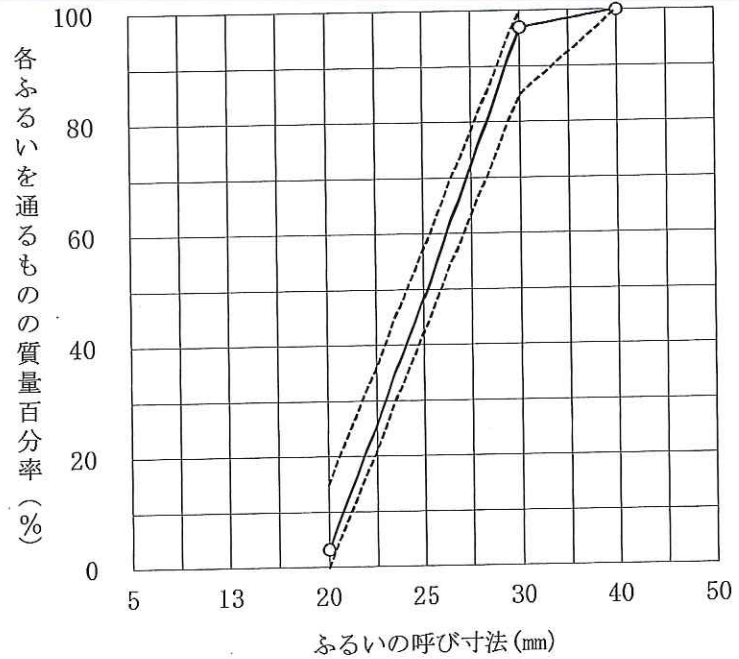
道路用砕石試験成績書

2026年2月25日

種類	単粒度 S-30 (4号)	原石の種類	硬質砂岩
製造会社名	株式会社西村砕石所	採取地の地名・地番	北九州市八幡西区大字畑字丸尾551外25筆
工場名	大谷工場	試験実施日	物理試験： 2026年2月
試験項目 (物理試験)	規格値	試験値	備考
絶乾密度 (JIS A 1110)	2.45g/cm ³ 以上	2.71	表乾密度(2.72) ※ 密度・吸水率及びすりへり減量の試験値は、単粒度S-13(6号)の試験結果による。
吸水率 (JIS A 1110)	3.0%以下	0.51	
すりへり減量 (JIS A 1121)	35%以下	15.7	
安定性 (JIS A 1122)	12%以下	1.2	
軟石量 (JIS A 1126)	5.0%以下	0.0	
単位容積質量 (JIS A 1104)	—	1.50kg/ℓ	
粘土塊量 (JIS A 1137)	0.25%以下	0.0	
細長い、あるいは扁平な石片 (舗装・調査試験法便覧)	10.0%以下	2.0	

ふるい分け試験 (JIS A 1102)

	ふるいの呼び寸法	各ふるいを通るものの質量百分率 (%)
ふるい分け試験結果	40	100
	30	97
	20	3



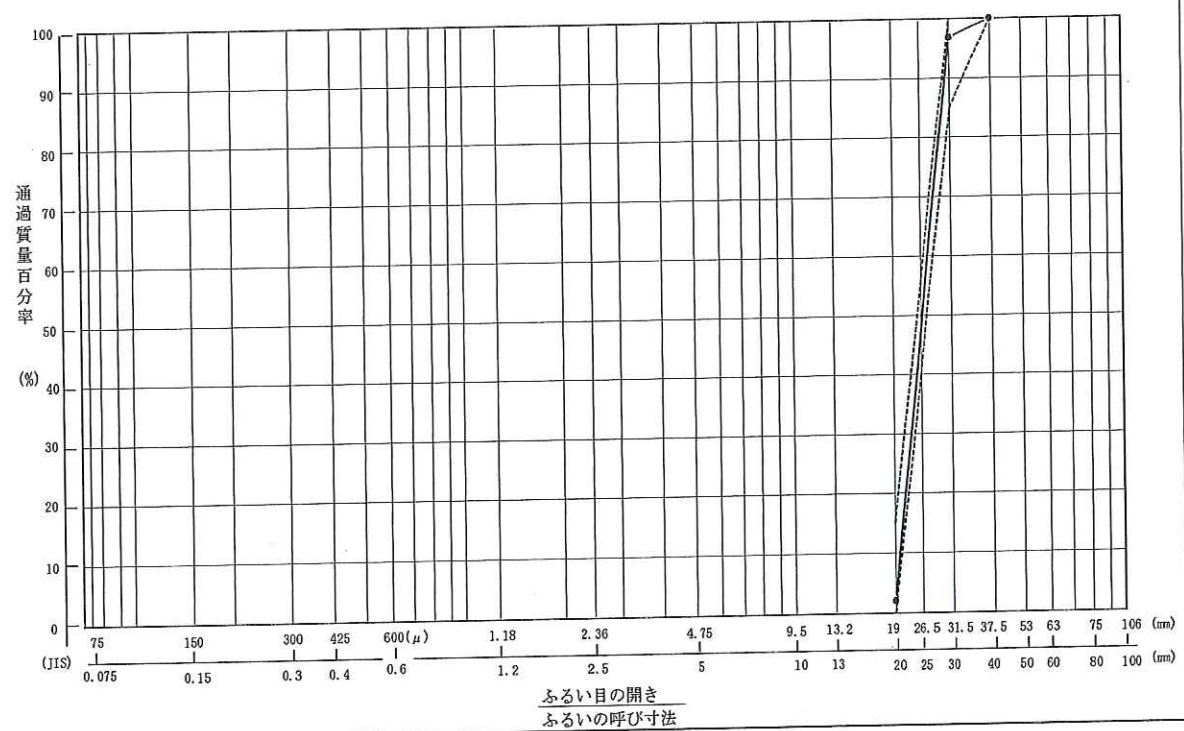
作成者	担当部署： 品質管理課
	担当者名： 安藤 俊作

JIS A 1102 骨材のふるい分け試験

試料番号 _____ 試験年月日 2026年2月16日
 調査名・目的 単粒度 S-30 (4号) 使用場所 _____
 試料採取場所 製品ヤード 試験者 安藤 俊作

試験前の試料の質量 8,526 g
 試験後の試料の質量 8,310 g
 試験前後の質量の差 2.5 % (1%未満)

ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる量		各ふるいにとどまる量の累計		ふるいを通る量 (%)	粒度範囲 (%)
	(g)	(%)	(g)	(%)		
60						
50						
40	0	0	0	0	100	100
30	257	3	257	3	97	85~100
25	—	—	—	—	—	—
20	7784	94	8,041	97	3	0~15
13						
5						
2.5						
1.2						
0.6						
0.4						
0.3						
0.15						
0.075						
受皿	269	3	8,310	100	0	
計	8,310	100				



備考

粗骨材の密度及び吸水率試験

試料採取日 2026年2月3日

試験年月日

2026年2月7日

試験で用いた水の温度 20°C

試験者

安藤 俊作

		試験回数	1	2
m ₁ : 表面乾燥飽水状態	①	ρ_w	0.9982	0.9982
における試料の質量 (g)	②	m ₁	2461.3	2470.5
m ₂ : 試料とかごの水中の	③	m ₁ × ρ_w	2456.9	2466.1
見掛質量 (g)	④	m ₂	1907.6	1914.8
m ₃ : 金網かごの水中の	⑤	m ₃	350.1	350.0
見掛質量 (g)	⑥	② - (④ - ⑤)	903.8	905.7
m ₄ : 絶対乾燥状態の	⑦	D _s = ③ ÷ ⑥	2.72	2.72
質量 (g)	表乾密度の平均値 (g/cm ³)		2.72	
D _s : 表面乾燥飽水状態に	表乾密度の平均値からの差 (g/cm ³)		0.00	0.00
における密度 (g/cm ³)	⑧	m ₄	2,448.7	2,457.9
D _d : 絶対乾燥状態に	⑨	m ₄ × ρ_w	2,444.3	2,453.5
における密度 (g/cm ³)	⑩	D _d = ⑨ ÷ ⑥	2.70	2.71
Q : 吸水率 (質量分率) (%)	絶乾密度の平均値 (g/cm ³)		2.71	
ρ_w : 試験温度における	絶乾密度の平均値からの差 (g/cm ³)		0.00	0.00
水の密度 (g/cm ³)	⑪	$Q = \frac{② - ⑧}{⑧} \times 100$	0.51	0.51
	吸水率の平均値 (%)		0.51	
	吸水率の平均値からの差 (%)		0.00	0.00

※ 水の密度は、試験温度に応じて次の値を用いる。

温度 (°C)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
密度 (g/cm ³)	0.9991	0.9989	0.9988	0.9986	0.9984	0.9982	0.9980	0.9978	0.9975	0.9973	0.9970

※ 試験値は、平均値からの差が、密度の場合は0.01 g/cm³以下、吸水率の場合は0.03%以下でなければならない。

※ 試料は、単粒度S-13 (6号) による。

ロサンゼルス試験機による 粗骨材のすりへり試験報告書

2026年2月25日

試験年月日
2026年2月7日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日	試料の試験前における粒度	13~10 10~5
骨材の呼称	単粒度 S-30 (4号)	粒度区分	C
試料番号	—	玉の個数及び全質量	鋼球8個 3329g
試料質量	40kg	円筒の回転数	500回

摘 要	測 定 値	
① 試験前の試料の質量 (g)	13~10	2,500
	10~5	2,500
	合 計	5,000
② 試験後の1.7mmふるいに残った試料の質量 (g)	4,215	
③ すりへり損失質量①-② (g)	785	
④ すりへり減量 (%)	15.7	

$$\text{すりへり減量 (\%)} = \frac{\text{すりへり損失質量}}{\text{試験前の試料の質量}} \times 100$$

※ 試料は、単粒度S-13(6号)による。

骨材の安定性試験報告書

2026年2月25日

試験年月日
2026年2月21日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日	試験溶液の種類	硫酸ナトリウム
骨材の呼称	単粒度 S-30 (4号)		
試料番号		備考	5サイクル
試料質量	40kg		

通るふるい (mm)	とどまるふるい (mm)	①各群の 質量分率 (%)	②試験前の 各群の質量 (g)	③試験後の 各群の質量 (g)	④各群の損失 質量分率 $1-③/② \times 100$ (%)	⑤骨材の 損失分率 $① \times ④ / 100$ (%)
50	40	0	—	—	—	—
40	30	2	—	—	1.6	0.0
30	25	42	1,500	1,478	1.5	0.6
25	20	56	1,000	992	0.8	0.4
20	13	0	—	—	—	—
13	10	0	—	—	—	—
10	5	0	—	—	—	—
合計		100	—	—	—	1.2

備考

$$\text{各群の損失質量分率(\%)} = \left(1 - \frac{\text{試験前の試料の質量(g)}}{\text{試験後の試料の質量(g)}} \right) \times 100$$

$$\text{骨材の損失質量分率(\%)} = \frac{\text{各群の質量分率(\%)} \times \text{各群の損失質量分率(\%)}}{100}$$

ひっかき硬さによる軟石量試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

2026年2月21日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料質量	40kg
試料採取日	2026年2月3日	試料採取方法	4分法
骨材の呼称	単粒度 S-30 (4号)		
試料番号		備考	

通るふるい (mm)	とどまるふるい (mm)	①各群の質量分率 (%)	②試験前の各群の		③各群の軟石		④各群の軟石質量分率 $\text{③}/\text{②} \times 100$ (%)	⑤各群の軟石個数分率 $\text{③}/\text{②} \times 100$ (%)	⑥骨材の軟石分量率 $\text{①} \times \text{④} / 100$ (%)
			質量 (g)	個数 (個)	質量 (g)	個数 (個)			
50	40	—	—	—	—	—	—	—	—
40	30	2	—	—	—	—	—	—	—
30	25	55	3,000	49	0	0	0.0	0.0	0.0
25	20	43	1,500	74	0	0	0.0	0.0	0.0
20	13	0	—	—	—	—	—	—	—
13	10	0	—	—	—	—	—	—	—
合計		100	4,500	123	0	0	0.0	0.0	0.0

骨材の単位容積質量及び実績率試験報告書

2026年2月25日

試験年月日
2026年2月17日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日	試料の詰め方	棒突き
骨材の呼称	単粒度 S-30 (4号)	試料番号	
試料質量	100kg	合否判定	合格

摘 要	第1回測定	第2回測定	平均値
① 容器の容積 (ℓ)	10.0	10.0	—
② 容器中の試料の質量(g)	14,970	14,988	—
③ 単位容積質量 (kg/ℓ)	1.50	1.50	1.50
単位容積質量の平均値からの差 (kg/ℓ)	0.00	0.00	—
④ 絶乾密度 (kg/cm ³)	2.71	2.71	—
⑤ 実績率 (%)	55.5	55.5	55.5

※ 単位容積質量の平均値からの差は、0.01kg/ℓ以下でなければならない。

粘土塊量試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

2025年2月21日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日		
骨材の呼称	単粒度 S-30 (4号)		
試料質量	40kg	備考	

摘要	1回目	2回目	平均値
① 試験前の質量 (g)	2,236.2	2,229.8	—
② 試験後2.5mmふるいにとどまったものの質量 (g)	2,235.8	2,229.3	—
③ 粘土塊の質量 (g)	0.4	0.5	—
①-②			
④ 粘土塊量 (%)	0.0	0.0	0.0
$\frac{\text{③}}{\text{①}} \times 100$			
平均値との差 (%)	0.0	0.0	—

※ 粘土塊量の平均値からの差は、0.2%以下でなければならない。

骨材の形状試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

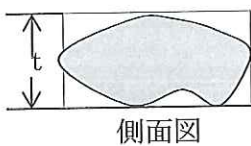
2026年2月24日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月16日		
骨材の呼称	単粒度 S-30 (4号)		
試料質量	40kg	備考	

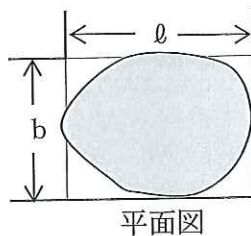
摘 要	
M1 細長いあるいは扁平と判定された骨材の質量 (g)	39.5
M2 細長いあるいは扁平と判定されなかった骨材の質量 (g)	1,974.9
細長いあるいは扁平な骨材の含有量 $\frac{M1}{M1 + M2} \times 100$ (%)	2.0

※ $l/t \geq 5$ にあてはまる骨材を細長いあるいは扁平な骨材とする。



水平面

b : 短径 粒子の平面図において、輪郭に接する2つの平行線間の最小距離



l : 長径 上記の平行線間で、短径に対して直角方向の最大距離

t : 厚さ 水平面に平行で粒子表面に接する平行面間の最大距離

骨材を水平な面の上に置いたとき、最も安定した状態を上から見た図を平面図とする。